



Person 05

宮城教育大学附属特別支援学校 教諭*

佐々木健太郎

Kentaro Sasaki

- 2007年 障害児教育教員養成課程(S課程) 養護学校教育専攻 卒業



*2014年8月現在 修士課程特別支援教育専修1年に在籍中

子どもたちの 今の幸せと未来の幸せを 担っている仕事

私がかかわっているのは、知的に障害のある高校生たち。高等部に入ってなかなか環境の変化に慣れず、落ち着きのなかったAくん。私もうまくコミュニケーションが取れませんでした。5月の宿泊学習の夜、布団に入ると、Aくんが私に「あ!」と手を伸ばしてくる。くすぐるとケラケラと笑う。また手を出してくる。今度はフェイントを掛けてくすぐる。もっと笑う。こんなやり取りを繰り返していました。その出来事をきっかけに、少しずつAくんとのやり取りが成立するようになりました。

高等部入学当初、ほとんど友達とかかわりのなかったBくん。学校での様々な経験を経て、少しずつ友達とかかわる楽しさを感じてくるようになりました。2年生のある日のつぶやき、「卒業したらみんなばらばら。それぞれ生きていくんですね…。」さらに、「でも、みんなとの楽しい思い出があるから大丈夫です!」とBくん。「そんなことないよ。卒業したってみんなといくらでも会えるんだよ」と話すと、Bくんは笑顔でうなずきました。Bくんの未来が一つ開けたように感じられた瞬間でした。

「教師の仕事は、子どもたちの今の幸せと未来の幸せを担っている。こんな素敵な仕事はない」は、学生時代に先輩が話していた言葉です。自分には、まだまだ遠く及びもつかない言葉です。しかしながら、子どもたちと心を通わせ、子どもたちが“変わった”と感じられる瞬間に立ち会えることは、何にも替えがたい喜びであり、教職の魅力です。先の言葉を自信をもって言えるよう、これからも自分自身を高めていきたいと考えています。